

◆気高町

① 交流のまちづくり

気高町のにぎわい創出と地域経済の活性化にとって、交流人口の拡大は非常に重要な課題です。平成26年の本市西部地域（気高町、鹿野町、青谷町）への世界ジオパークエリア拡大や、令和元年5月に全線開通した山陰道鳥取西道路と同年6月にオープンした「道の駅西いなば気楽里」、気高町にとって、交流のまちづくりを進める絶好の機会となりました。

テレワークなど新たな働き方に対応できるよう光回線を整備し、超高速ブロードバンド時代の環境に対応します。また、気高町の魅力を全国にアピールするため、若者を中心に普及しているSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用し行政情報・観光情報を発信します。

② 新しい風のまちづくり

浜村温泉街の再生及び活性化は、気高町全体にとって重要な課題です。

人口減少が進む中、将来にわたり安心して暮らし続ける事ができる地域づくりに、住民自ら主体的に取り組む、「小さな拠点」の機能形成と地域運営組織の体制強化を目指していきます。

平成24年度から取り組んでいる「芸術のまちづくり」を通じて、気高町の素晴らしい自然と芸術家の創造性を結合し、新しい風を取り入れたアーティストと住民との協働活動の取組を今後更に支援する必要があります。

また、貝がら節祭りをはじめとした従来の地域イベントは、本来の目的である地域の活性化に結びつけることが大切です。目的や内容など、イベントの在り方を見直し、準備段階からの住民参加や実行委員会に若者などが参画する体制づくりに取り組みます。

③ 地域産業のまちづくり

田園が広がる気高町にとって最大の地域産業である農業を取り巻く環境は、ますます厳しくなっています。一方では、積極的な創意工夫を凝らしてさまざまな特産品も生産されており、儲かる経営、後継者の確保をめざして、「生姜」、「有機米」、「はま茶」などのブランド化や生産基盤整備、「道の駅西いなば気楽里」をはじめとした販売拠点・販売ルートの整備、6次産業化などを推進します。

また、**将来を見越した市有施設の再整備の検討**やリノベーションによって空き家等の利活用を図っていきます。

さらに、漁業や観光を含めた地域産業の強化をめざし、その振興策を事業者・団体などとの協働により進めます。

④ 教育・文化のまちづくり

気高町内のそれぞれの小学校区で、住民を中心に小学校に関わる関係者が、将来の子どもたちの教育環境を検討する組織を立ち上げ、平成29年度から令和2年度にかけて、鳥取市教育委員会に小学校の統合を求める要望書を提出しました。令和2年10月、鳥取市校区審議会が「気高地域の4つの小学校を一つの学校として新設

統合する」ことを答申し、これを踏まえ鳥取市教育委員会で同様の方向性が示されました。

今後「小学校設立準備委員会（仮称）」を立ち上げ、住民と力を合わせて新たな学校づくりに取り組みます。

また、「酒津のトンドウ」や「因幡の菖蒲綱引き」など地域の文化を保存・継承するとともに、気高町の重要な伝統文化である民謡「貝殻節」の保存団体を支援し、担い手の発掘・育成に取り組み、次世代へ唄と踊りを継承します。

⑤ 安心・安全のまちづくり

異常気象による自然災害の危惧や新型コロナウイルス感染症の拡大など、安心・安全な生活が脅かされています。

こうした社会情勢の変化や複雑かつ多様化する市民ニーズに対応するためには、行政、社会福祉協議会、自治会と市民が共に助け合い、支え合いながら、個別の課題や地域の課題を解決していく必要があります。

地区、集落単位の防災マップの更新や避難訓練など地域における防災の取り組みを継続するとともに、気高町に住むだれもが、みんなで支え合い、いつまでもいきいきと暮らし続けることを目指します。

「地域」を中心とした、安心・安全でいきいきと暮らし続けることができるためのまちづくりを進めます。

●めざす将来像

多様なライフスタイルで暮らせる、「気ぶん☆さい高、ときめきのまち」気高町

豊富な湧出量に恵まれた古くからの出で湯「浜村温泉」、約5キロにわたって続く鳴り砂の浜、秀峰「鷲峰山」を望む豊かな田園風景などの素晴らしい自然の恵み。

「因幡の菖蒲綱引き」、「酒津のトンドウ」、「大堤のうぐい突き」、「貝がら節」をはじめとした歴史や文化、文化財。

先人が創意工夫しながら伝えてきたさまざまな産物。そして、自然災害が比較的少なく、便利で住みやすい生活環境。

これらのかけがえのない地域資産（誇り）を受け継ぎ、住民と行政が協働して地域おこし活動に取り組むことによって、地域の力と誇りを高め、魅力的で創造力あふれた、安全で安心して多様なライフスタイルで暮らせる気高町をめざします。